産業技術総合研究所
2014年6月4日

2014 年 6 月 3 日西之島上空観察報告

読売新聞社社機（みらい：JA560Y）による西之島取材に同行し、上空から火山活動を観察した。調査日時は2014年6月3日，現地滞在時間は10:58 から11:30 の約30 分間。上空を旋回して肉眼観察および写真・ビデオ撮影を行った。

海上保安庁5月21日観察報告によれば「北側の火口」、「新たな火口」、「南側の火口」の3つの火口が示されている。このうち5月21日観察時では「南側の火口」はすでに活動が認められていなかった。今回の上空観察で確認できた火口は2個所で、これらは海上保安庁5月21日観察報告の「北側の火口」と「新たな火口」に相当する。5月21日と同様に「南側の火口」はすでに活動を停止していると思われる。

5月21日の観察報告と比較して、噴火の様子に大きな変化はない。噴煙は北西方向に流れ、噴煙高度は約1000m（操縦士による）。

溶岩流は南側に流れたローブが活発で、海水と接触する部分では白色の水蒸気が激しく立ち上っている。溶岩流上には赤色部など、特に高温部は認められない。

火砕丘の高さは約150m（操縦士による）。その頂部に「北側の火口」。ここでは5ないし20秒おきに間欠的に灰褐色噴煙を噴出しているが、多くは噴煙のみしか確認できず、スパターは時折わずかに確認できた程度である。

「新たな火口」では火口付近では青白く見える噴煙が連続的に噴出し、白色噴煙の高度は約1000m。火口内には赤熱部分がわずかにのぞく。中央部にある火砕丘の基部に位置し、溶岩流はこの火口から流出している。

海水変色域は旧島側に広がり、新噴出物側ではわずかである。

観察にあたり読売新聞社に便宜を図っていただいた。記して感謝します。

写真 1：東南東上空より見る西之島全景。噴煙高度は約 1000m。手前幅 200m ほど、活動中の溶岩流が達する海岸線から大量の水蒸気が立ち上る。海水変色域は旧島側に広がる。

写真２：２つの火口（奥の「北側の火口」と手前の「新たな火口」）と流出中の溶岩流（黒色部）。「新たな火口」から溶岩流が流出し、火口内には赤熱した部分が見られる。

写真 3：写真中央の火口が「北側の火口」。間欠的（5-20 秒間隔）に灰褐色噴煙が吹き出し、時折、スパターが確認できる（中央上の黒い点）。

写真 4：海水と接触する溶岩流（西之島南南東の海岸部）。常に立ち上る水蒸気からこの溶岩流が現在も流出中（前進中）と推定。